

地名の由来

垂水の名が歴史に登場したのは、保安元年（西暦 1120）宇佐八幡宮より来た上総介舜清かづきのすけしゆんせいが、垂水（荒崎）城主となった時とされています。この地は火山灰シラス台地で水晶のような清らかな水が湧き、「垂る水」が語源になったとも、大隅の中心で海山のものが足り満ちていたので「タリミチ」が転じて垂水になったとも言われています。

はじめに

垂水市は大隅半島の玄関口と言われ、南北 37 キロの海岸線を有し、目の前に桜島と錦江湾、後に高隈の山々が連なり、対岸には薩摩半島を望み、遠くに開聞岳や霧島山を見ることができます。

温泉も各地に湧き、古くから風光明媚な景勝地として知られています。

また、連綿と続く歴史と文化が息づき、教育、文化の町として栄えてきました。

縄文時代晩期の柁原貝塚は国指定級とされ、平家落人伝説、中世豪族たちの争い、関ヶ原の合戦に敗れた宇喜多秀家の潜居、垂水島津家の統治などの史実のほかに、高名な文化人も輩出しています。市内いたるところに有形無形の文化財が点在し、県下最古級の木彫りの勝軍地蔵や野辺の田の神像が昔を偲ばせ、季節になると、伝統行事や郷土芸能が行なわれています。

このガイドブックにはふるさと垂水市の歴史と文化財をわかりやすく掲載いたしました。

ガイドブックを手にして親子で、友達同士で出かけてみませんか。

皆様にとって、垂水市の歴史と文化財を知る手助けになれば幸いです。

垂水市教育委員会
教育長 長濱重光

目次

埋蔵文化財	3～4
～古代のロマン、国指定級の柁原貝塚ほか～	
中世の豪族	5
～地方豪族が覇権を争った時代～	
垂水島津家	6～7
～薩摩藩 77 万石を支えた一門家～	
彫刻、天然記念物、名勝、史跡、書籍・典籍	8
～いにしえより伝わる人々の生きた証～	
田の神	9
～野辺にたたずみ豊作を祈る～	
郷土芸能、伝統行事	9
～後世に伝えたいふるさとの宝～	
垂水人形	10
～素朴な土人形・鹿児島県伝統的工芸品～	
民話・伝説	10
～「江之島弁財天」「河童 <small>しりなし</small> と尻無みな」～	
近世垂水の偉人	11
～和田英作と瀬戸口藤吉～	
文化財マップ	12

埋蔵文化財

～古代のロマン、国指定級の柁原貝塚ほか～

美しい自然に囲まれたわたし達のふるさと垂水には、昔から多くの人々が暮らしており、たくさんの埋蔵文化財が残されています。

① 柁原貝塚

柁原下にある遺跡です。貝塚は、貝のカルシウム分により通常の遺跡では腐敗してしまっていて残らない骨や種子等が残っている貴重な遺跡ですが、柁原貝塚は非常に保存状態が良く膨大な情報量をもった遺跡で、とても貴重な遺跡として全国的に有名です。

調査中、多くの出土品が発見されましたが、この出土品自体も当時の様子を知る上で貴重な資料であるということで、平成24年（西暦2012）4月、224点が鹿児島県指定文化財として指定されました。



② 横道遺跡

横道遺跡は、垂水カントリークラブのゴルフ場造成に伴い、平成6・7年度に発掘調査された遺跡です。

遺跡からは、弥生時代後期（約1800年前）から古墳時代（約1500年前）にかけてのいろいろなものが出土しました。縄文時代の土器、古墳時代の土器、古墳時代の鉄器（やじりなど）などが出土しています。

いろいろな時代の遺物が出土していることや、遺物が出土したのはすべて急傾斜の谷からであることから、この谷の上の丘にある遺物が流れ込んだものと考えられます。



③ 後迫A遺跡

後迫A遺跡は、農免農道整備事業に伴い平成8年度に発掘調査された遺跡で、柁原小学校の裏地の、旧国鉄大隅線鉄道跡地内に位置します。

遺跡からは、古墳時代（約1500年前）の土器溜り（一定の範囲から集中して土器が出土する場所。一般に土器の廃棄場と考えられる）が4基出土しました。出土遺物の大半はこの土器溜りから出土したものです。

古墳時代の土器（他に類例を見ないものなど貴重なものも含まれます）や12世紀ごろのやきもの（青磁碗・白磁皿）などが出土しています。

